



最初にお読みください



AT-TQ2450 リリースノート


この度は、AT-TQ2450 をお買いあげいただき、誠にありがとうございます。
このリリースノートは、マニュアルに記載されていない内容や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。
最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ファームウェアバージョン 1.2.0

2 本バージョンで追加・拡張された機能


ファームウェアバージョン 1.1.7 から 1.2.0 へのバージョンアップにおいて、以下の機能が追加・拡張されました。

2.1 HTTPS プロトコル

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「オプション設定」](#) / [「HTTP/HTTPS」](#)


HTTPS プロトコルで設定画面にアクセスできるようになりました。

2.2 RADIUS ポート番号と RADIUS アカウンティングポート番号

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「VAP」](#)


VAP ごとに、「IEEE802.1x」「WPA エンタープライズ」の「RADIUS ポート番号」と「RADIUS アカウンティングポート番号」を設定できるようになりました。

2.3 プライベート MIB

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「オプション設定」](#) / [「SNMP」](#)


プライベート MIB をサポートしました。

2.4 AT-TQ2403 互換 Syslog ファシリティー

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「ステータス」](#) / [「イベント」](#)


「イベント」画面のオプションに「TQ2403 互換」ラジオボタンを追加しました。これを有効にすると、AT-TQ2403 と同様の Syslog ファシリティーとなります。

2.5 Auto チャンネル候補と定期チャンネル更新

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「無線」](#)


「無線」画面に「Auto チャンネル候補」「定期チャンネル更新」チェックボックスを追加しました。「Auto チャンネル候補」は、「チャンネル」で「Auto」を選択したときに自動選択されるチャンネルの候補を設定します。「定期チャンネル更新」を有効にすると、「チャンネル」で「Auto」が設定されている場合には、24 時間ごとにチャンネル再選択を行います。

2.6 夏時間

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「オプション設定」](#) / [「NTP」](#)

夏時間が設定できるようになりました。

2.7 無線コントローラーとの切断時の動作

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「Managed AP」](#)

「Managed AP」画面に「リンク切断時動作」ラジオボタンを追加しました。これにより、無線コントローラーとの接続が切断されたときに、アクセスポイントに無線電波の送受信を止めて待機させるか、単独のアクセスポイントとして自律的に動作させるかを選択できます。

3 本バージョンで仕様変更された機能


ファームウェアバージョン 1.1.7 から 1.2.0 へのバージョンアップにおいて、以下の機能が仕様変更されました。

3.1 ディレクティッド・ブロードキャスト Ping 応答

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「イーサネット設定」](#)


「イーサネット設定」画面に「ディレクティッド・ブロードキャスト Ping 応答」ラジオボタンを追加しました。

3.2 コミュニティー名

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「オプション設定」](#) / [「SNMP」](#)


「Read Only のコミュニティ名」「Read/Write のコミュニティ名」「トラップのコミュニティ名」に「'」（シングルクォート）「\」（円マークまたはバックスラッシュ）を除く半角英数記号が使用できるようになりました。

3.3 ブートローダーの更新

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「保守管理」](#) / [「アップグレード」](#)

ファームウェアのアップグレードを実行する際、現在のブートローダーと新たにインストールしようとしているブートローダーのバージョンを比較するようにしました。新しい場合はブートローダーを更新しますが、同一か古い場合は更新しません。

3.4 提案時刻の表示

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「クラスター」](#) / [「チャンネル自動管理」](#)

「チャンネル自動管理」画面の「提案されたチャンネル割り当て」の提案時刻の表示を変更しました。

4 本バージョンで修正された項目

ファームウェアバージョン 1.1.7 から 1.2.0 へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 4.1 無線コントローラーの WLAN > AP Management > Software Download 画面でアクセスポイントのファームウェアアップグレードを行うと、アクセスポイントの設定が書き換わっていましたが、これを修正しました。
- 4.2 アクセスポイントが無線コントローラーの管理下に入ったり抜けたりしているうちに、アクセスポイントの無線設定が無効になるなど設定が書き変わってしまうことがありましたが、これを修正しました。
- 4.3 無線 1 と無線 2 の両方がオンに設定されている状態で、セキュリティとして WPA エンタープライズ (WPA2、CCMA (AES)) または IEEE 802.1X を選択し、VAP の 13、14、15 のいずれかの「有効」にチェックを入れて「適用」ボタンをクリックすると、該当の VAP に接続できないが、接続できても通信できませんでしたが、これを修正しました。
- 4.4 「VAP」画面のセキュリティ「IEEE802.1x」で「RADIUS キー」に 64 文字のキーを入力すると、AT-TQ2450 の再起動後に認証ができなくなっていましたでしたが、これを修正しました。
- 4.5 クラスタを構成しているとき、「イーサネット設定」画面の「IP アドレスの取得」を「DHCP」から「スタティック IP」に変更すると再起動していましたが、これを修正しました。
- 4.6 クラスタを構成しているとき、「クラスタ」/「隣接アクセスポイント」画面と「ステータス」/「隣接アクセスポイント」画面の「レート」の値が異なっていましたでしたが、これを修正しました。
- 4.7 「System Name」(システム名)、「System Contact」(連絡先)、「System Location」(設置場所) の表示が SNMP マネージャーと「基本設定」画面で異なることがありましたが、これを修正しました。
- 4.8 「保守管理」/「設定」画面の「現在の設定のバックアップ」の「ダウンロード」ボタンをクリックし「Web ページからのメッセージ」ダイアログボックスが表示されてから、「ファイルのダウンロード」ダイアログボックスの「保存」ボタンをクリックするまでに時間 (約 15 秒) を空けると、保存された設定ファイルの一部が破損することがありましたが、これを修正しました。
- 4.9 ファームウェア転送中に Web ブラウザーを閉じると、本製品が再起動していましたが、これを修正しました。

5 本バージョンでの制限事項


ファームウェアバージョン 1.2.0 には、以下の制限事項があります。

5.1 イーサネット設定

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「イーサネット設定」](#)


「イーサネット設定」画面でサブネットマスク 0.0.0.0 が登録可能です。

5.2 無線

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「無線」](#)


「モード」を IEEE 802.11a から IEEE 802.11a/n にすると、設定の変更が直ちに反映されません。「無線 2」の「ステータス」をいったん「オフ」にして「オン」にするか、本製品を再起動してください。

5.3 VAP

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「VAP」](#)


- IEEE 802.1X、WPA エンタープライズのセッションキー更新間隔の設定値を変更しても動作に反映されず、ブロードキャストキーの更新間隔の設定値と同一のタイミングでセッションキーが更新されます。
- ダイナミック VLAN (WPA エンタープライズ) 環境で、無線クライアントの検疫を行うように RADIUS サーバーが設定されている場合、無線クライアントに VLAN 間ローミングが発生すると、無線クライアントの認証に失敗することがあります。

5.4 Managed AP

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「Managed AP」](#)


「Managed AP」画面の「コントローラー IP アドレス 1 ~ 4」「パスフレーズ」の入力文字数に制限があります。「コントローラー IP アドレス 1 ~ 4」には 64 文字までしか入力できません。「パスフレーズ」には 8 から 63 文字までしか入力できません。

5.5 チャンネル自動管理

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「クラスター」](#) / [「チャンネル自動管理」](#)


- 「チャンネル自動管理」を「開始」すると、「無線」画面の「定期チャンネル更新」が有効のままとなります。「チャンネル自動管理」画面の「開始」ボタンをクリックする前に、「定期チャンネル更新」のチェックを外してください。
- クラスターを構成し、「無線」画面の「使用帯域幅」「制御用チャンネル」がそれぞれ「40MHz」「上側波帯」に設定されているとき、「チャンネル自動管理」を「開始」状態から「停止」に変更すると無線が停止します。

5.6 送信 / 受信

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「ステータス」](#) / [「送信 / 受信」](#)


LAN ポートでパケットを受信した後に統計情報を更新すると、送信 / 受信の総パケット / バイト数とともに送信の総エラー数もカウントアップします。

5.7 QoS

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「オプション設定」](#) / [「QoS」](#)


- 「NoAck サポート」は機能いたしません。
- 「APSD サポート」は正常に機能いたしません。

5.8 SNMP

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「オプション設定」](#) / [「SNMP」](#)


- クラスタ機能の有効にする場合は、「トラップコミュニティ名」に「<」「>」「&」を使用しないでください。「<」「>」「&」を使用すると、「SNMP」画面の「トラップ送信先」のすべての項目がクラスタで共有されなくなります。
- atkkWiAcAssociated トラップが送信される前に、atkkWiAcAuthSucceeded トラップが送信されます。

5.9 NTP

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「オプション設定」](#) / [「NTP」](#)

「夏時間開始日 (24 時間表記)」を「最終週」「日曜日」に設定すると、「開始月」に設定されている次の月になるまで夏時間が開始されません。また、「夏時間終了日 (24 時間表記)」を「最終週」「日曜日」に設定すると、「終了月」に設定されている次の月になるまで夏時間が終了されません。

5.10 設定、アップグレード

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「保守管理」](#) / [「設定」](#)

[「リファレンスマニュアル」](#) / [「保守管理」](#) / [「アップグレード」](#)


重要：アップグレードやダウングレード中は、本製品の無線機能が停止します。アップグレードやダウングレードは、必ず有線 LAN ポートに接続したコンピューターから実行してください。
また、アップグレードやダウングレード中は、本製品の Web 設定画面へのアクセスや、有線 LAN ポートへのトラフィック流入をできるだけ避けてください。アップグレードやダウングレードに失敗するだけでなく、本製品が起動できなくなる可能性があります。

- バックアップ、リストア、アップグレードにおいて、設定ファイルやファームウェアファイルのフルパス名が 254 文字までしか入力することができません。
- ファームウェアファイルの転送中に、UTP ケーブル抜けなどにより転送が不完全な状態となった場合は、本製品を再起動した後、再度アップグレードを実行してください。再


起動を行わないと、アップグレード中にメモリー不足となり、リポートしてしまうことがあります。

5.11 Web 設定画面


- 「SNMP マネージャのホスト名またはサブネット」にマスク長として 33 ~ 99 の値を入力すると、画面下部にデバッグメッセージが表示されます。また、マスク長の値を 100 以上にすると「サブネットが無効です」というメッセージが表示されます。

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「オプション設定」](#) / [「SNMP」](#)

- 「チャンネル自動管理」画面の「固定」チェックボックスを適用する際に、画面の下部にデバッグメッセージが表示されることがあります。

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「クラスター」](#) / [「チャンネル自動管理」](#)

- IE7 を使用して「無線」画面の内容を変更し「適用」ボタンをクリックしても画面が自動的に再描画されません。IE7 の「最新の情報に更新」ボタンをクリックして画面を再描画してください。


 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「無線」](#)

- Web ブラウザーのキャッシュの影響によって画面が正常に表示されないことがあります。その場合は、キャッシュをクリアしてください。

6 オンラインヘルプの訂正

オンラインヘルプ（ファームウェアバージョン 1.2.0B08）の誤記訂正です。

6.1 SNMP コミュニティー名

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「オプション設定」](#) / [「SNMP」](#)

「SNMP」画面の「Read Only のコミュニティ名」「Read/Write のコミュニティ名」「トラップのコミュニティ名」で使用可能な文字に関して、次の誤りがあります。訂正してお詫びいたします。

誤：「Read Only のコミュニティ名」「Read/Write のコミュニティ名」「トラップのコミュニティ名」は、半角英数記号が使用可能です。


正：「Read Only のコミュニティ名」「Read/Write のコミュニティ名」「トラップのコミュニティ名」は、「'」（シングルクオート）「\」（バックスラッシュ、円マーク）を除く半角英数記号が使用可能です。

7 ファームウェアのアップグレードにおけるご注意

重要：アップグレード中は、本製品の無線機能が停止します。アップグレードは、必ず有線 LAN ポートに接続したコンピューターから実行してください。
また、アップグレード中は、本製品の Web 設定画面へのアクセスや、有線 LAN ポートへのトラフィック流入をできるだけ避けてください。

7.1 V.1.0.0 → V.1.1.6 以降へのアップグレード

ファームウェア V.1.0.0 から V.1.1.6 以降へのアップグレードは、まず V.1.0.0 から V.1.1.5 にアップグレードし、引き続き V.1.1.5 から V.1.1.6 以降にアップグレードしてください。

 **参照** 「リファレンスマニュアル」 / 「保守管理」 / 「アップグレード」


直接、ファームウェア V.1.0.0 から V.1.1.6 以降へのアップグレードを行わないでください。これを行うと、ファームウェアが正常に更新されません。これを行ってしまった場合は、この状態から V.1.1.5 にアップグレードし、その後 V.1.1.6 以降にアップグレードしてください。

ファームウェアは、弊社ホームページからダウンロードしてください。

<http://www.allied-telesis.co.jp/>

7.2 V.1.1.0 以降 → V.1.1.6 以降へのアップグレード

通常のアップグレードを行ってください。

 **参照** 「リファレンスマニュアル」 / 「保守管理」 / 「アップグレード」

ファームウェアは、弊社ホームページからダウンロードしてください。

<http://www.allied-telesis.co.jp/>

8 リファレンスマニュアルについて

最新のリファレンスマニュアル (613-001462 Rev.C) は弊社ホームページに掲載されています。本リリースノートは、上記のリファレンスマニュアルに対応した内容になっていますので、お手持ちのリファレンスマニュアルが上記のものでない場合は、弊社ホームページで最新の情報をご覧ください。

<http://www.allied-telesis.co.jp/>

